

ダウン症のある子どもの難聴について

難聴は、ダウン症のある子どもによく見られ、子どもの発達に影響を与える可能性があります。この資料では、難聴の種類と難聴のスクリーニング方法について説明します。

ダウン症のある子どもにどのような難聴が起こるのでしょうか？

伝音性難聴

- 難聴の一般的な原因です。
- 音が外耳道を通りにくくなり内耳に到達しにくくなります。内耳には、マイクの役割をする蝸牛（かぎゅう）があり、このマイクが聞こえを助けています。もし、このマイクに音波が届かなければ、音のメッセージを脳へ送ることができません。
- このような難聴は、中耳炎や耳垢の蓄積によって起こります。

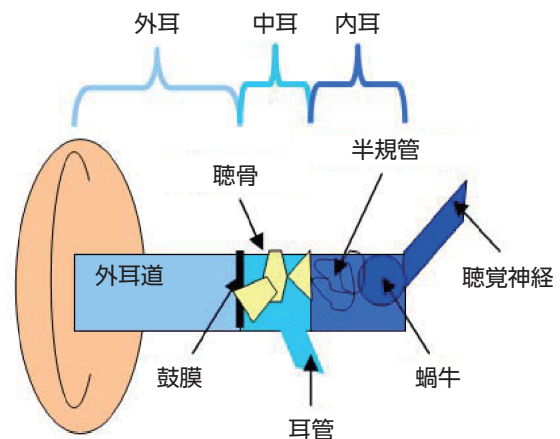
感音性難聴（SNHL）

- このタイプの難聴は、あまり一般的ではなく通常、永久的に続きます。この難聴は内耳の変化により起こります。
- 蝸牛と呼ばれる体内のマイクが、脳に音のメッセージを送れなくなることがあります。また、聴覚神経（音のメッセージを脳に伝える神経）が働いていないこともあります。
- 感音性難聴の場合、補聴器が役立ちます。

なぜ難聴になるのでしょうか？

ダウン症のある子どもの難聴の大部分は伝音性難聴です。ダウン症のある子どもにはしばしば以下のような特徴があるからです。

- 狭い外耳道
- 滲出性中耳炎（中耳に水がたまる）
- 小さい耳管（中耳と鼻の奥をつなぐ管）



感音性難聴は伝音性難聴に比べると少ないですが、ダウン症のある子どもに起こる可能性があります。生まれつきの難聴もあれば、小児期以降に発症する難聴もあります。新生児聴覚スクリーニング検査が正常であったとしても、必ず定期的な聴力検査を受けてください。

難聴かどうかを知るには？

- ダウン症のある子どもは、必ず新生児聴覚スクリーニング検査を受けてください。これは退院する前に行われます。
- ダウン症のある子どもは生後6ヶ月に、再度オーディオグラムと呼ばれる聴力検査を受けます。
 - この検査で問題がなければ、両耳の聴力が正常であることが確認されるまで、6ヶ月ごとに聴力検査を受けてください。
 - 懸念される問題がある場合は、耳鼻咽喉科での診察が必要になります。
- 両耳の聴力が正常であると確認された後も、毎年オーディオグラムを受けることが必要です。